

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立唐崎中学校

【結果について】 滋賀県基準との比較

＜教科を中心とした学力・学習状況＞



滋賀県の平均値を
破線で示しています。

＜学習習慣・自己有用感など＞



《概要》

教科を中心とした学力・学習の状況の項目では、「主体的・対話的で深い学び」「ICTを活用した学習状況」「数学・理科に関する意識・学習活動・学力」で県平均を上回る数値でした。また、教科以外の項目では、「自己有用感」「主体的な学習の調整」「総合・学習活動・道徳」で県平均を上回る数値でした。一方で「国語に関する学習」や「読書等」の言語に関する項目、「生活習慣」や「向社会性」等の項目では県平均を下回る数値となりました。

《強み・弱み》

〈国語〉強みは、相手の反応を踏まえながら自分の考えが分かりやすく伝わるように表現することと、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することです。これは、タブレット端末を積極的に活用し、「生徒と教師」「生徒同士」「生徒と教材」といった多様な関わり合いを、課題に応じて自ら学び方を選択できる授業を行ったことや、課題解決に向けて他者と協働しながら考えを深めてきたことで、主体的に答えを出す力を身につけることができたと考えられます。また、常に自身の考えを他者と照らし合わせながら、相手のことを意識した学びができたことも要因と考えられます。弱みは、文章に即して漢字を正しく書くことや、書く内容の中心が明確になるように内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることが苦手なことです。理由としては、文章の中心を読み取る力は身につけているものの、「漢字を正しく書く力」や「文章の構成力」を苦手としており、タブレット端末を活用した授業に偏りがあったことも一因であると考えられます。「ICTと紙媒体の併用」した授業を進めていきます。

〈数学〉強みは、県や全国平均と比較して無回答率が低く、中間層より上寄りの層が多い傾向にありました。理由としては、生徒どうしが粘り強く教え合う学習が、全体的な底上げに繋がっているものと考えられます。弱みは、記述式や証明の問題に弱いことです。理由としては、書くことが苦手な傾向にあるためと考えられます。字を書く場面を意識的に設定し、書き方パターンに添って、繰り返し学習を進めていきます。

〈理科〉強みは、県や全国平均と比較してIRTバンド分布比較において50~90%以上の割合が高いことや、IRTスコアについて非常に高い値であったことがあげられます。また、文章表記の問題において正答率が顕著に高く出ていました。これは授業で多くの実験を取り入れたことで、理科に対する興味関心が高まったことや、熱心に学習に取り組めたこともその要因と考えられます。弱みは、電気や気圧などの計算や論理的思考を伴う単元について、正答率が二極化していたことです。理由としては、全体的に計算について苦手意識を持つ生徒が多く、授業から得た知識を活用して応用的に思考する力が弱いことが考えられます。引き続き、自然の事物・現象について実験・観察する機会を重視し、科学的な思考を深める授業を展開していきます。

〈生徒質問紙〉

県や全国平均と比較して特に良い傾向が見られる主な項目は「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「学級での話し合いを通して自分の考え方を深めたり新たな考え方に気づいたりすることができていますか」がありました。学校や家庭生活において、周囲の人と良好な関係を保つことができており、全体的に充実した生活が送れているようです。一方で県や全国平均と比較して課題が見られる主な項目は「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「土日など学校が休みのときに1日あたりどれくらい勉強をしますか」「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらい読書をしますか」がありました。SNSや動画配信による受動的な情報収集が主となり、自らの意思で学習や読書を行う能動的な時間が減少しているようです。適切な情報の活用について、学校と家庭が連携を深めていきます。また、多様な考え方に触れる機会として地域の中で唐中生が活躍できる機会を模索し、子どもたちが「家庭・学校・地域で育つ唐崎」を目指して取り組みを進めていきます。

【指導の充実に向けて】

◇探究的態度を育むような課題設定を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を実践するための授業改善に取り組みます。

◇学んだことや意欲、問題意識等が家庭学習や次の授業につなげられるよう、授業の時間内に、「まとめ」や「振り返り」の時間を確保し、それらの質的な改善に取り組みます。

◇どの教科においても、「話すことや聞くこと」、「書くこと」など表現させる取り組みを通して、言語活動の一層の充実に向けた取り組みを進めていきます。